

# 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院外来診療医担当表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	2診	総合診療 廣西			総合診療 廣西		総合診療 廣西		総合診療(循環器) 羽野	
	3診	糖尿外来 河井		循環器 桒野	総合診療(循環器) 羽野	泌尿器外来 梶垣(武) (2・4週)	肝臓 佐藤	糖尿外来 河井(奇数週)		
	4診	呼吸器 奥田	皮膚科 (奇数週) 神人 (偶数週) 鎗山		脳神経内科 中西	循環器 山本		リウマチ膠原病 応援医師 (第2週)		
	新患5診	東裏		河井		東裏		田中		奥田
	外科診					脳神経内科 中西			櫻井 【第3週を除く】	
脊椎ケアセンター	6診	脳神経外科 大岩			脳神経外科 大岩		脳神経外科 大岩		脳神経外科 上野 【第1週】	脳神経外科 大岩
	7診	整形外科 米良(好)		整形外科 中川		骨粗鬆症外来 寺口		整形外科 米良(好)		整形外科 中川
	8診	整形外科 籠谷		整形外科 寺口		整形外科 北山		整形外科 籠谷		整形外科 北山
眼科	高田	佐々木	石川	雑賀 岡田 【第1週】【第3週】 (眼科新患も含む)	石川	子ども外来 高田	高田	石川	石川	術前外来
			子ども外来 (第1週以外) 二出川 (第1週以外) 白井	白井				白井	佐々木	
小児科	青柳		樋口		青柳		青柳		青柳	
リハビリテーション科	隅谷		隅谷		隅谷		隅谷		隅谷	
	風呂谷		風呂谷		風呂谷				風呂谷	
認知症疾患医療センター		大岩				廣西	廣西		中西	

診察受付/月曜~金曜:午前8時45分~11時30分 ※第1週の水曜日午後は、加藤医師が救急対応 令和2年4月1日現在

# 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院通信



# あじさい

vol.32  
2020.春号

## 分院長就任のご挨拶



分院長  
廣西昌也

このたび令和2年4月から紀北分院の分院長を拝命いたしました廣西昌也です。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。病院スタッフと一体になって地域のための病院として努力を惜しまない覚悟です。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、紀北分院が生まれたのは昭和13年のことです。伊都郡購買販売利用連合会によって「紀北病院」の名称で設立されました。今も多くの方々「紀北分院」とは呼ばず「紀北病院」と呼びになるのはこの歴史があるからでしょう。昭和恐慌のあと紀北地方も疲弊しており、生糸の暴落により廃業となった製紙工場跡に紀北病院は建設されました。当時はお年寄りの数は少なく、紀北病院に来る患者さんは怪我や栄養障害、当時はやっかいな病気であった胃潰瘍とか、あと特に結核や腸チフス、赤痢などの伝染病が多かったと思われます。今も紀北分院は和歌山県の感染症指定医療機関として4床の陰圧室がありますが、そのルーツは地域に蔓延していた伝染病対策として昭和26年に病院内に設立された地元町村立伝染病隔離病舎にたどることができます。

昭和30年に和歌山県立医科大学附属病院紀北分院となり、平成になってからは老年期特有の疾患が増えました。私の専門である認知症をはじめ、脳卒中や心臓病、難聴や視力障害などの感覚器疾患、膝および股関節の痛み、背骨の変形や骨折、運動不足や筋肉の衰えに伴う歩行障害や活動量の低下など、高齢者の生活を制限してしまう病気は枚挙にいとまがありません。しかし紀北分院の診療もまた時代の変化に対応し、現在は、成人病や動脈硬化性疾患、認知症、脳卒中などを得意とする内科・脳神経外科、川上守前分院長が精魂を込めて発展させた背骨や関節を扱う整形外科、運動能力の改善・維持に欠かせないリハビリテーション科、感覚器疾患の代表である白内障や黄斑変性症などを数多く手がける眼科など、現在の地域の健康ニーズに適応した体制に変貌しています。また地域の子供たちの健康のための小児科や、まだ小規模ではありますが、皮膚科や泌尿器科などの診療も行っております。

時代は大きく変わりましたが、地域の方々のための病院であるという紀北病院の時代からのスピリットは何ら変わりがありません。地域の方々の健康の砦として、元気で明るい老後暮らしをできるように、病気になったときの対応はもちろんですが、病気にならないため、寝たきりにならないための工夫を市町村や医師会とともに強力に発信していきたいと思っておりますので、今後とも皆さまのご意見・ご指導を是非お願い申し上げます。

## 「かるて師匠の健康高座」

分院長・内科教授 廣西昌也

今回大川亭可流亭(おおかわてい かるて) 医師と、医療系志望の高校生、北紀子(きたのりこ)ちゃんがお話しています。

- 紀子:先生、うちのおばあちゃんが最近ふらふらして心配です。  
可流亭:ふらふらする原因には、血圧が低すぎたり、脳卒中の中にもあるし、単に運動不足で足が弱っていることもあるね。睡眠薬や安定剤の副作用のこともあるんだよ。  
紀子:それだわ!おばあちゃん、睡眠薬を毎晩何錠も飲んでるんです。薬をいっぱいため込んで。だめだって言うんだけど...  
可流亭:日本人は外国に比べて睡眠薬や安定剤を飲み過ぎてるそうだよ。  
紀子:なぜ睡眠薬や安定剤は悪いの?  
可流亭:年をとると薬が身体にたまって副作用が出やすくなる。そもそも眠れないのを無理矢理寝かせてるわけだから、翌日更に眠れなくなるのは当然です。  
紀子:こけて骨折しないかも心配。  
可流亭:睡眠薬の多くは筋肉をゆるめる作用もあるから、転倒して骨折するリスクも高くなる。認知症も増えるという報告さえあるんだよ。  
紀子:認知症もですか!  
可流亭:ストレスなんかでたまに寝られないときに使うのは全然問題ないんだけど、お年寄りが毎日飲むのは良くないです。でも急に中止しても具合わるいこともあるから、主治医の先生に是非相談するように伝えてください。最近では筋肉のゆるみが少なくて、翌日残りにくい薬もあるし、朝は太陽とか明るい光を浴びるのもいいそうだよ。  
紀子:じゃあ、まずはおばあちゃんとラジオ体操してみますね。



### 【お知らせ】

- 令和2年4月より、内科に田中篤准教授、東裏將己助教、奥田有香学内助教が着任しました。
- 令和2年3月末で、整形外科の川上守教授、眼科の二出川裕香助教が退職しました。
- 令和2年4月より、内科の岸本祥平助教、田中将規学内助教、江守誠司学内助教、眼科の安武正治郎学内助教が、和歌山県立医科大学本院勤務になりました。
- 次回の紀北分院通信「あじさい」夏号は7月発行です。

## 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 廣西昌也

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066(代) FAX0736-22-2579  
ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>  
2020年4月発行



## 車いす6台を寄贈

2020年3月5日和歌山県トラック協会 青年協議会様から車いす6台を寄贈いただきました。



## 【掲載内容】

- 分院長就任のご挨拶
- 教授就任のご挨拶
- 新任ドクター紹介
- 紀北分院退職に寄せて
- 特定行為研修を修了しました
- 外来診療医担当表
- かるて師匠の健康高座





## 教授就任のご挨拶

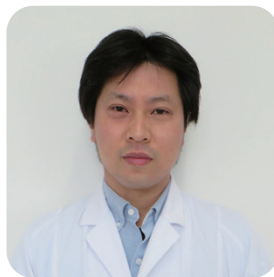


整形外科教授  
中川 幸洋

診察日 / 火、金  
専門分野 / 脊椎脊髄外科、特に低侵襲脊椎手術、脊椎内視鏡手術  
趣味 / スポーツ（Open Water Swimming、バスケットボール等）

2020年4月から紀北分院整形外科教授を拝命しました中川幸洋です。私は2年前に紀北分院に赴任させていただきこれまでお世話になってきました。紀北分院の使命は大きく二つあります。一つは大学機関としての高度医療の提供、もう一つは地域医療の充実です。前者に関しては自分の専門性を生かし、脊椎内視鏡手術をはじめとした低侵襲手術を積極的に行っていきます。内視鏡手術は、腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニア、頸部脊髄症などの common disease（有病率の高い疾患）に対しても非常に有効ですし、かつ社会復帰までの期間が短いのが特徴です。そのほか、紀北分院では骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術（バルーンカイフォプラスティ；BKP）や腰椎椎間板ヘルニアに対する酵素注入療法、低侵襲成人脊柱変形手術などの専門的治療、高難度手術も積極的に行っています。歌手の X JAPAN の YOSHIKI さんがアメリカで受けた頸椎人工椎間板手術も昨年末日本で認可されましたが、和歌山県ではいち早く紀北分院が認定病院となっています。一方、地域医療という点においては、整形外科的な骨折や外傷、関節疾患に関する診療にも対応しています。また、紀北分院のあるかつらぎ町周辺は和歌山県でも高い高齢化率を示していますが、我々医療人は如何に要介護を防止していくかが課題です。要介護となる原因としては、脳血管障害、認知症、骨折・転倒・運動器障害がそのほとんどを占めますが、紀北分院にはそれらをカバーできる診療科、即ち廣西新分院長を中心とした認知症専門の外来があり、脳神経外科、眼科の専門医も常駐しています。レベルの高い専門ナースやリハビリスタッフ、臨床心理士の治療も加わり、より密度の濃い治療が可能となっています。紀北分院では整形外科治療にとどまらず、他科との連携を中心とした包括的なケアにより地域住民の方々の役に立てるよう、頑張っていきたいと思っています。整形外科にとどまらず、我々でお役に立てることがあればお気軽に相談いただければ幸いです。

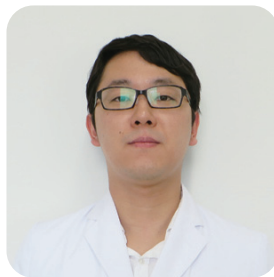
## 新任ドクター紹介



講師  
眼科  
高田 幸尚



助教  
整形外科  
北山 啓太



学内助教  
眼科  
臼井 祐太



学内助教  
リハビリテーション科  
風呂谷 容平

よろしくお願ひします。

## 紀北分院退職に寄せて



前分院長  
川上 守

今年3月に和歌山県立医科大学附属病院紀北分院を定年退職することになりました。平成19年4月に本院整形外科から赴任して脊椎ケアセンターを立ち上げ、13年の年月が経ちました。その間に新病院の建設、開設など様々なことがありましたが、皆様方のおかげで今日を迎えることができました。本当に長い間ありがとうございました。当時の南條理事長学長から「本院は Cure を、分院は Care をする」とお聞きし、ケアの一つである「脊椎ケアセンター」を任せていただきました。脊椎に起因すると思われる愁訴が、脊椎以外の原因によることを多々経験していましたので、整形外科、脊椎外科医のみでは患者さんにとって有益な治療ができないのではないかと考えていました。脊椎ケアセンターでは、患者さん中心の多職種チーム医療を実践しようと考えました。必要な診療科は多岐にわたっていますが、当時、整形外科医は私を含めて3名、脳神経内科医1名、麻酔科医1名でした。当時の津川看護師長を中心にした優秀な看護チームと本院から派遣いただいた療法士たちが患者さん中心の医療を実践してく

れました。さらに臨床心理士、メディカルクラークを採用していただき、脊椎ケアセンターの骨格が出来上がりました。治療の有用性の判定は、患者さん本人からご評価いただくことと多くの質問票を準備しました。脊椎ケアセンターではいくつかの新しい手術術式を開発し、患者さん自身にご評価していただき、報告してきました。看護師、臨床心理士、療法士は、職域を超えて、痛みや治療の満足度と心理社会的因子の関係や腰部脊柱管狭窄症に対する運動療法の有用性等々、多くの研究成果を発表してくれました。基礎研究では、ストレスが加わることで腰痛が顕著になることをラットで初めて証明しました。さらに、かつらぎ町で看護師や介護士、地域住民のコホートを立ち上げ、腰痛・頸部痛・肩こり・骨粗鬆症の疫学研究も行うことができました。これらの結果は英文誌にも掲載されていますので、大学の使命の一部を担うことができたと考えています。

一昨年に優秀な整形外科医が2名増員となり、脊椎疾患のみではなく、骨折や関節疾患など整形外科全般に対応可能となっています。今後はさらに近隣の地域医療に貢献できると確信しています。

私は、研究と診療を通して、紀北分院には優秀な医療スタッフがいることを証明してきました。このスタッフがいる限り、これからも患者さんには安心・安全な最先端の治療を届けることができると考えています。今後とも紀北分院を宜しくお願ひ致します。

令和2年3月9日  
分院長室にて



## 特定行為研修を修了しました

当院の山本真由看護師が、当院で初めて特定行為研修を修了しました。この研修は、チーム医療を推進し、看護師がその役割をさらに発揮するため、2014年6月に創設された「特定行為に係る看護師の研修制度」によるものです。研修を修了すると、特定行為を手順書により実施することが可能となります。

